

第6期第2回河内長野市民公益活動支援・協働促進懇談会 会議録

日 時：平成26年8月11日（月） 10:00～12:00

会 場：市民公益活動支援センター「るーぷらざ」

出席委員：久、湯川、大谷、金子、佐川、下川、杉岡、設楽、曾和、永田、飛良、山崎

事務局：市民協働課：松浦、長野、杉本、住田

指定管理者：特定非営利活動法人かわちながの市民公益活動推進委員会 西村理事長

1. 開会

2. 案件

① 市民公益活動支援センターの評価について

3. 閉会

① 市民公益活動支援センターの評価について

会 長：今日は、るーぷらざの指定管理の評価ということで始めさせていただきます。まずは、西村さんの方からお話ししたい点があればお願いします。

理事長：河内長野ガスの新社屋を防災の拠点の一つにしたいという話が一昨年くらいから話があって、ついては、学習会を一緒にさせてもらおうということで、市、社協さん、長野まちづくり会議さん、河内長野ガスさんとセンターで昨年度も学習会を行いました。今年に入ってから、建物もほぼ出来上がったので、防災ベンチやその他の器材を確保してもらって、新しい形の防災ネットワークが出来ればという話をしています。防災ネットワークは、他市でもできているが、なかなか難しいと聞いています。身の丈に合うように進めていきたいと思っています。その中で、従来から社協さんとの話し合いを継続的にやりたいという思いはあったのですが、防災の関係を通じて、若干話し合いの場を持てるようになっています。

会 長：それでは、みなさんの方から何か質問とかはありますか。

理事長：まちづくり協議会でも利用していただいています。現在では、主に高向がここで会議をしています。高向からはちょっと距離がありますが、ここが使いやすいのか月1回利用していただいています。

委 員：月1回利用させていただきますし、公民館や農協も利用しています。

理事長：夜は使いやすいのかもしれないですね。

会 長：高向以外にも使われていますか。

理事長：小山田も使ってくださいましたね。

委 員：第1水曜日にこちらで役員会をしていましたが、今は公園緑化協会です。あそこの方がここまで出てくる必要がないから便利だし、駐車場も広いですから。ここは2つの団体が使うと満杯ですからね。

理事長：多い時は、会議にワークスペースを使っただけの時もあります。

委 員：この場所そのものは、11万人に対して狭いと思っています。よその11万人～13万人の市と比べてみて、どうなのですか。

理事長：ここを作る時の話し合いの中で、最初に議論になったのが、隣にキックスです。キックスはかなりお金をかけていて作っていて、市民団体もそこを利用すれば、センターはいらないのではという話になりました。でも、簡単な打ち合わせだけに利用したい時、キックスは予約が必要になります。きちんとした会議なら手狭だけど、打ち合わせをメインにした場所にすればどうかという話になって、小さいなら小さいなりの使い方をしようということになりました。予約を取れるようにしてほしいと話もあるが、予約を取れてなおかつ無料となると、こっちに来るのは分かっています。それは具合が悪いということで、あくまでも少人数の打ち合わせの場に限定していますが、それなりにニーズはあり、今に至っています。

会 長：私もセンター開設前からずっと一緒に協議させていただいた中で言いますと、ここは貸館ではないんですね。貸館はキックスも含めていろんな所がありますが、センターは、市民公益活動を応援するための色んな機能を持ったところであるというところ言えば、センターの部屋は付随施設であって、本来はNPOの相談に乗ったり、皆さんとのネットワークづくりのお手伝いしたりするのが、このセンターの役割だという訳です。

副会長は堺の市民活動コーナーを委託されています。堺は80万人ですが、貸館はありません。応援機能だけに特化しておられます。ここは少しスペースがあったので、理事長が言ったように、無料で予約なしでぶらっと使っただけで提供させていただいているというのが経緯です。

委 員：報告書の中で、箕面の視察のことが載っています。箕面は13万人なので、河内長野とほぼ似たような人口です。そこの利用者数や内容を見ると、主旨は違うかもしれないが、場所的に大きい物を持っているのではないかと思います。それから考えた場合、建物そのものが、比較できるかどうか分かりませんが、ちょっと狭いのではないかと思った訳です。

会 長：私は箕面にも関わらせていただいておりますが、箕面のセンターは、元々は箕面の駅前にあったのですが、ショッピングセンターを作る時に、事業者が箕面市にスペースを提供して、そこがたまたま市民活動センターになったという訳です。だから、お金も全部事業者が出してくれています。ここは元々が法務局のあった場所で、スペースも限られていますし、その中をどう工夫するかということで、状況としては違うかなと思います。

委 員：例えば南花台西小学校は、今どうなっているのか知りませんが、そういう空スペースが各小学校にあると思います。各小中学校は、少子化のせいでスペースがどんどん空いているので、もっと使い方を考えればいいと思います。地域の会合や交流を考えた時に、小学校が使えないのは、防犯の関係もあるのでしょうけれど、高齢者のために解放した方が、市全体の交流スペースの活性化になるのではないのでしょうか。センターはそれを応援するところかなと思ったりします。

理事長：情報提供はしていて、例えば、西小を活用してくれる市民団体についての問い合わせとかは来ています。また、うちもあそこを活用すればという話も聞くが、うちのスタッフが行ける程、うちに力量が無いのと、地域のことは地域で積極的に使ってもらおうということで、全部うちが出ることはないと思っています。しかし、情報については、そういう活動があれば、いつでもうちの方で提供します。各小学校の建物という意味では、美加の台がそういうスペースを作られます。学校の先生に話を聞いていると、地域とつながりができ始めた時に、池田の事件が起きて、防犯でシャットアウトしないといけなくなって、管理もあるし、地域との交流のこともあって、学校としても悩んでいるようです。徐々に使えるスペースは、学校の方も作られているようですし、現に長小も防災に使っています。

委 員：安全面を考えて、シャットアウトしてしまう方が優先されている部分があります。そういうことを言っているから、交流が進みません。そのあたりも考えていくのが、センターの役割でもあるんじゃないかと思っています。

理事長：情報発信はしたいと思っているが、教育委員会と直接話してということにはならないので、具体的に、話し合いの場を持つような動きはしていません。

委 員：私は高向公民館の運営委員をしていますが、学校の空きスペースを使うという話は出ています。でも、防犯の面からいうと、入口を2つにしないといけないと。地域によって異なるが、高向は少子化が進んでおり、今年の新入生は3名しかいません。天野小学校との合併の話も出ています。空きスペースを使えばいいと我々は思いますが、先生方には空きスペースはまた別に使いたいから、そのまま維持したいという声もあるらしいです。教育委員会の中でも検討課題になっています。公民館もどんどん古くなっていて、建て直しせずに公民館はそのまま残して、そ

れを別のところへ移行するような形になるらしい。そうなると学校の空きスペースをという話が出てくるが、入口を2つにしないといけないし、一般は夜に使うのが多いので、鍵の問題が出てきます。簡単にはいきません。

委員：そういうことを考える部署が必要なのでしょうか。市役所の考え方は色々あるでしょうが、縦割りの状態でいくところなる訳で、それを横に広げていければなあと思います。

会長：それはセンターの役割ではなくて、我々懇談会の役割だと思うんですね。そういうのを提案していただければと思います。

理事長：情報交換でいうと、この4月から若干の改善ということで、情報コーナーの工夫をしています。各団体が持ってくるチラシの古いものを、うちでファイリングして管理させていただこうと思っています。今はまだ活用されていませんが、情報コーナーの充実を目指しています。また、ミーティングスペースに通路を設けました。ここで会議をしていると、2階の貸ブースの利用者が通りにくかったので、パネルで仕切って、通りやすくしました。パネルですので、展示もできます。今後できればと思っているのが、防災ベンチづくりをしたいと思っています。防災の一つの拠点になるのではと思っています。

委員：少人数の会議は入口のところで、大人数の時は奥または他のところだと、分けていて良いのではないですか。

理事長：2階は貸ブースになっていて、今5団体が借りています。1件あたり机と電話を置くだけですが、代表の方を連絡先にするのが具合悪い場合は、ここに事務所を置いていただいて、郵便や電話のやり取りもここでしている。お金があれば、きちんと事務所を借りられるが、なかなか市民団体はそこまで出来ない。団体の力がついてきたら、きちんとした事務所を借りてもらって、ここはそれまでの仮住まい的に借りてもらえればと思っています。

会長：他にいかがでしょうか。

委員：年間利用者数が12,544人になっているが、西村さん自身としては、その数は多いと思っていますか。妥当だと思っていますか。

理事長：あまり人数は問題ではないと思っています。さっき、会長がおっしゃったように、貸館ではないので、実際、来られたのは1人であっても、ここで相談して、それで地域の活動が活性化すればそれで良いので、単純に人数ではないのかなと思っています。

委員：私は自治会の仕事をしてはいますが、る一ぷらぎをテーマに話をしたことがないんです。る一ぷらぎも知らなかった。懇談会で話を聞いていると、結構利用されているので、浸透しているのだと思いました。私は千代田小学校区に住んでいて、自治会館や千代田公民館を利用しています。そういう中で、自治会館は自治会の人が使っているのが当たり前で、他の人は使わない事を前提にしています。これはまずいのではないかとということで、賃貸しになるのですが、自治会員とそうでない方の段差をつけて、貸し出そうと考えています。最終的な狙いとしては、自治会組織を作っていない人が圧倒的に多いので、その方たちを呼び込みたいと思っています。自治会館を使ってもらえれば、交流も増えるし、パイプもできるのではないかと考えています。

利用してもらうには広げないといけないけれど、果たしてる一ぷらぎはどれくらい認知されているのか見当が付きません。また、会長の話では、る一ぷらぎの仕事は支援活動となっているが、支援を受ける方は、何の活動をしているのか全然見えていません。ボランティア活動をされている方たちを狙いに活動していて、それ以外にこぼれた人がいっぱいいるのではないかと。こぼれているというより知らない人がいるのではないかと。資料を見ていると、色んなことをされているのは頭が下がる思いだし、日頃の仕事ぶりを見ているとバタバタと色んなことをされているが、そのところが見えないです。

理事長：自治会との関係の問題がありますね。当初、宣伝物も含めての関係で言うと、自治会にも市役所を通じて、情報を回そうという話はもちろんありました。しかし、公益活動の支援という活動の中で、現状では、自治会を公益活動団体とは思っていない。あくまでもそこに参加している住民の利益の為の活動であるので、お声は全体にかけさせていただいていないです。ボランティアフェスティバル等も、声かけをできない訳ではないが、現状は自治会に一律に回覧を回していないので、情報が漏れる時があるかもしれない。

では、どういう形で情報発信するのかということ、あくまでも、自主的なボランティアや市民公益活動団体宛となるので、どうしても情報量が小さい。今年は、もうちょっときちんと宣伝しようということで、具体的には冊子数も増やしました。今までは、120の団体宛の情報がメインで、あとは口コミで広げてもらう形だったが、今年は、市内の公共団体、学校、幼稚園、その他全般的に配ります。しかし、自治会までは情報発信の対象にはなっていません。皆さんの意見の中で自治会にも発信ということになれば、市と相談して検討していきたいが、今のところ、ボランティア団体、公共施設等への発信にとまっています。

委員：る一ぷらぎが市民に直接発信するのも一つでしょうし、僕らを利用してもらうのも一つだと思います。

会長：委員の自治会は一生懸命している方だと認識していますが、その中でもうちょっとこういうのがあればいいなとか、こういうところをこうしてもらった方が

いいな、という話がありますか。

委員：今ちょっと頭に浮かばないです。

会長：なぜこういうことを聞いているかという、あえてここは応援するセンターなので、自分たちでまかなえているところは、サービスをする必要性もないのかなと思います。こういうことを応援して欲しいという時に、色んな応援をしてもらうという利用だと思えます。私も色んな市をお手伝いしていて、一番もっとあればいいなと思っているのが、各団体のつながりです。色んな団体さん、色んな方々が、色々頑張ってくださっていて、それがもっと横につながっていけば、力がアップできると思うのですが、なかなかつなぐというところが、誰がつなげばいいのかというのも見えていない。そういう時に、市民活動団体さんをまず繋いでいき、今度は市民活動団体さんと自治会さんや地域の団体さんをつないでいくというのがセンター役割だと思うんですね。そういう時に、どういう情報発信をしたり応援ができるかということです。

具体的な事例を申し上げますと、八尾市は「つどい」という市民活動センターを持っています。八尾も河内長野と同じように、各小学校区に協議会ができました。その協議会と団体さんをつなごうということで、今回団体紹介誌を作った中に、各小学校区ごとに拠点を持っている市民公益活動団体がこれだけありますということ、団体の紹介と索引のような形で紹介しています。ただそれだけのことですけれど、うちの近くにこんな団体があるなら、連携すればこういうこともできるね、と。ほんのちょっとした仕掛けなんです、動き出しているところです。

委員：元々は市民団体を結ぶという役割で一ふらざが出来たと思っていますが、今、利用人数が減ってしまっています。会長が言われたように、各地域に自治会もありますし、小学校区にまちづくり協議会も出来ている。そういうところにおっしゃったような情報をいただければ、まちづくり協議会が動きやすくなるのではないかと考えていたので、ぜひ校区ごとにいただけませんか。自治会とまちづくり協議会は連携を取って一緒にやっついていかないとだめで、元々ある自治会に入っている人と新しく自治会に入れていない方、その方みんな市民です、その方と結んで行こうという、結びの役割を一ふらざがやっただけなら、一番ありがたいと思っています。そこところが、どうして出来ないのですかという質問と同時に、今日お願いしたいなと思っていましたので、それを今年度していただけたらと思います。

長野小学校では、別の棟にコミュニティ棟というのがありますので、そこは連合町会の役員会であったり、まちづくり協議会でも使わせていただいています。また、月に2回校門開放日というのをやって、市民の皆さんに貸していただいて、学校とつなげていくという方法をとらせていただいていますので、少しは学校の方も協力していただいている部分があります。あとは情報をきっちり伝えていただけたらありがたいかなと思います。

会 長：今そういうお声がありましたけれど、理事長の方で、昨年度にもこんなことやってきましたよということがあれば。

理事長：正直、私は感覚的に減っているという実感はないのですが、あえて言いますと、色んな形での結集点が別にできています。例えば、センターが実施しているボランティア体験プログラムは、当初は参加者があったのですが、くろまる塾やくろまるキッズが宣伝され、社協さんも体験プログラムをされ、違う分野で色々増えていきました。ということであれば、センターが全部取り込むことはなく、センターを通して活性すれば良いというふうに思っているのですが、人数が極端に減ったから問題だとはあんまり考えていません。

情報発信は、ここ4、5年まちづくり交流会に関わらせてもらっていて、今はそれぞれのまちづくり協議会で自立して、団体を巻き込んでやっています。必要な相談があればセンターに来てくれればいい。できているのにセンターに来いという話はしませんので、できることをやっていただければ、センターを使ってとは言っていないです。それよりも、むしろ情報を教えてということがあります。各協議会の掲示コーナーを作っていますが、協議会の活発な動きとかは、ホームページや冊子を通して発信していきたいと思っています。

会 長：先ほどのご意見は、自らも市民活動と地域活動の両方をやっておられるので、その辺りをつなげば、もっと地域活動が元気になるんじゃないかなと、きっかけ作りをもっと一ふらぎがやってくださったらいいのではないかというアイデアだと思います。八尾は団体紹介誌を積極的に自治会さんに配って、こんな人たちがいるのではないかという話をまずお伝えするという工夫をしていたので、それも一つのアイデアですね。

委 員：私は昨年自治会の役員をしていて、今回初めて一ふらぎに来ましたが、自治会の中で一ふらぎというのは出てきたことはないです。情報発信は、ここを使ってくれという意味ではなく、ここにこういうのがあるという発信をすれば、必要な時にアドバイスをいただこうという人がでてくると思います。自治会の役員はボランティアで、自治会は地域の公益なんです。自治会活動がきちっとやられているというのは重要だと思います。自治会に情報をいただければ、色々アドバイスもいただけるし、地域にも色んな会がありますので、先程の意見に賛成です。

会 長：何かアイデアありますか。例えば、こういう発信の仕方をしてもらえればとか。

理事長：冊子を自治会に配るということですよ。

委 員：役員会の中で見て、色んなボランティアがあると思うので、関係しているところにあたれます。

理事長：発信することに抵抗している訳ではないが、市との話し合いの中で想定をしていないので、予算の問題があります。各自治会全部に発送するとかなりの部数になるので、市との話し合いもあるのかなと思います。おっしゃるようにホームページではなかなか情報として伝わりにくいと思うので、紙媒体でとなると経費の方もかかってくるので、その話もしないといけません。

委員：先ほど会長が何か欲しい情報はありますかと言われましたが、私がる一ぷらざを利用した短い経験から言いますと、昨年、市の協力を得て、近くの広場を整備しました。その時に、どういうふうにオープニングセレモニーをしようかとセンターで立ち話をしていたら、こんなんどうですかと色々教えていただいて、それを核にして動き出しました。でも、る一ぷらざがそういう相談に乗ってもらえる場所とは知らず、たまたま言われた方が詳しい方だと思っていましたが、利用しないと意味が解らないですよ。

自治会の役員をしていると、役所からいっぱい紙が来るので、紙を流すのも一概に良いとは思えないですが、知らないと話が進まないのです。

会長：る一ぷらざは、色んな講座もされていて、地域活動に役に立つ講座もたくさんあります。自治会さんにも情報をお伝えできれば、講座にも参加していただけるのではないのでしょうか。

理事長：私自身、健全育成会や自治会の自主防災の役など地域活動もしていますが、受け入れてもらうニュアンスが難しい。情報発信をすれば、ありがたいと言ってくれる人と、また訳の分からん施設を作ったという人とに分かれます。しかし、発信しないと話にならないというのも確かです。機械的に情報を出して良いとは限らない。そこは丁寧にやりたいと思います。機械的に上から情報を流す形ではやめたい。自主的にできるように、必要な形での情報提供をしたいと思います。また市と相談して検討したいと思います。

会長：他にいかがでしょうか。

副会長：活動報告書の冊子の最終ページで、相談コーディネイト部会とか色んな部会が書かれています。これはどれくらいの頻度で行われていますか。

理事長：最低月1回です。

副会長：相談というのが、このセンターの大きな役割だと思います。もちろん場の提供とか情報発信とかも大事ですが、センターに聞きに来れば、何を教えてくれるのか、どういうアドバイスが受けられるのか、どういうふうに活動が変化していくのか、

というのが重要だと思っています。相談の件数や分析が1ページでしか形になっていないので、相談した団体が分かってしまうような内容はダメですが、もう少し具体的に書いた方が伝わりやすいかなと思います。

理事長：ありがとうございます。その通りだと思います。今までは、相談業務自身が前センター長の個人的裁量でこなしていた部分が多くて、データとしてしっかり残っていなかったというのがあって、系統分類して今後に生かす形での話し合いがもたれていなかったというのが、残念ながら事実です。今年からは、他のメンバーでも相談できるような情報の定着についても把握しております。今考えているのは、どんな相談が来ているのか、どういう情報をどこに繋いで、どう持って行くのか、データ化も含めてきちんとしようという形で進めています。なので、もうちょっと猶予をいただきたいと思います。今年1年かけて、今のスタッフで組織的な対応をしていこうと思っています。

一方で、相談に来られる件数も決して減っておりませんので、それについては対応していますし、長野ガスさんからの相談がきっかけに、企業からのニーズもあります。保育園、幼稚園、ボランティアをして欲しいという団体と、やりますという団体の情報管理をきちんとしようということで、先日アンケートを実施しました。また、これから施設系とかにもアンケートの幅を広げて、できる限り情報を増やして行って、情報コーナーの1ブースにマッチングスペースのようなものを作ろうと話をしています。これから相談コーディネートの力で飛躍したいと思っているので、しばらく猶予をお願いしたいと思います。

委員：私は商工会に所属しているのですが、長野ガスさんが副会長をされていまして、会議の中で他の団体もこういう提案をされればどうかと話をされてきました。今日もせっかく色々な団体がいらっしゃるので、持ち帰られた中で話をされたら、より良いのではないかという気はします。私もこの間の会議で初めて聞いて、民間の企業でもOKなのだと知ったので、広められたらいいかなと思っています。また、先ほどから話に出ているように、データだけで見られるのと、理事長が言われたそんなに減っていないという感覚の差というのは、大きいと思うので、こういう会議の中で聞かせていただくのも有意義かなと思いました。主旨については、支援の方を主旨にされたら良いと思うのですが、その以前の段階で、どういうことをやっているのかというのは、まだまだ認知度が薄いかなというふうには感じます。ただ、オープンして8年になると思うのですが、以前に比べたら、毎年知っている方々が増えていますし、各所で一ぷらざの話を聞く機会も増えてきたので、これはこのままされたら良いのかなと思います。この会議におられる方は、初めての方が多いので、このデータだけが頼りになってきます。キャパの問題もあるし、あまり宣伝しても受けられないという部分もあるので、その辺の差を埋める会議にされたらという気がします。自治会にももっと知って欲しいというならば、もっと出せばいいし、この現状でOKですというのならば、その状況を説明いただければいいかなという率直な感想です。通路を

作られたり、情報を充実されたり、これはすごく良いことだと思うので、それをアピールされたらいいというふうには思っています。

理事長：ちなみに、自治会との関係でいうと、全然何もない訳ではなくて、る一ぷらぎを使って市主催の自治会交流会を開催してもらっています。ただし、自治会全体の交流会となると、1年目はミーティングスペースがいっぱいになって、2年目は交流スペースもいっぱいになって、キックスでするようになりました。そこで、る一ぷらぎで開催する分については、新役員の方に限定して、来てもらうようになりました。キャパの問題も含めて、工夫をしながら、自治会とのお付き合いもしているのが現状です。また、まちづくり交流会を小学校区で始めた時に、る一ぷらぎも協力してと言われ、正直なところ、そこまで出来るかなと思いました。そうはいつでも、協働促進ということで協力しようということになり、実際進めて行く中で、つながりも広がっていったし、協力もさせてもらえるなと思っています。

自治会との関係について、市の方はどうですか。

事務局：る一ぷらぎと相談していかないといけないと思いますが、会長が言われた八尾市の事例のように、各自治会に団体の活動紹介を配るということは、検討する余地があるかなと思います。紹介すべき内容は、議論していただけたらと思いますが、る一ぷらぎの事業報告を伝えるのも一つだし、登録団体の紹介を自治会にお知らせするのも、効果的な情報の発信になると思います。

センターの考え方としては、テーマ型の団体さんの紹介を、自治会などの地縁団体さんにお知らせすることが、横のつながりを持つという目的にかなう情報の中身なのかなと思います。団体の活動紹介の冊子やこれの簡易版みたいのも作っているの、そういうのはどんどん伝えていけばいいと思います。そんな感じがかがでしょうか。

理事長：もうワンステップ上げて考えているのは、商工会の方の話にもあったが、岸和田の協働課が、企業バンクみたいな形で、企業が空いている部屋を会議に使っていただいているよという情報を、集約して発信しています。岸和田はセンターがないので行政が集約しているが、うちはセンターがあるので、長野ガスさんとかを紹介させてもらえたらいいなと思っています。そういう事例はありますか。

会長：隣の富田林市がされています。一番面白いのは、大政寿司さん。寿司屋だから2時～4時まで開いていて、そこで市民活動の会合をさせてもらえます。

理事長：ああいうのもありかなと思いました。

会長：民間企業は市民活動に関係ない、そうではなくて、会議室など色んな資源を持っておられます。提供していただければ、市民活動の活性化につながります。また、

社会活動へ貢献をしたいという企業もたくさん出てきているということで、る一
ぷらぎは市民活動のまとめ役、商工会は商工業者のまとめ役、社協は福祉活動の
まとめ役、まとめ役同士が勉強しながら広げていくという手も可能性としてはあ
ると思っています。

他、いかがでしょうか。

それでは、ヒアリングは以上とさせていただきます。ありがとうございました。

会 長：それでは、ここからは我々の評価になりますけれども、いかがでしょうか。今ま
での皆さまの話を聞いてましたら、概ね頑張っていてやっていただいているというよ
うな評価をいただけると思います。

まだまだというところも、ご指摘いただいたのですけれども、他の市のセンター
と比べると、防災ネットワークの活動の支援をされたりということで、地域活動
へアプローチされているという意味では、他市のセンターよりかは頑張っていら
っしゃるかなという感じはしています。また、企業さんとのつながりも、作って
いただいているのは評価できるかなと思いました。

一方で、まだまだ知る人しか知らない状況だとすれば、広報をより充実してくだ
さいということで、特にせっかくまちづくり協議会がどんどん立ち上がって来ま
したので、まちづくり協議会を中心とした地域団体への広報とか、市民団体と地
域団体との連携を強化してほしいというご意見、副会長からご指摘ありましたよ
うに相談内容をより充実させて、それを上手くPRすることによって、また新し
い利用者の方へのアピールにもなるというようなご指摘もいただきましたし、理
事長からもおっしゃっていただきましたように、センター長も交代をしている時
期なので、どうしても相談業務というのは、一定の力量が必要になってまいりま
すので、スタッフ全体の力量のアップみたいなものも、今後の課題で、人による
相談ではなくて、センターとしての仕組み、システムとしての相談がきちんとで
きるような形で、より拡充していただきたいなと思います。

他に何か皆さまの方から追加のコメントはありますでしょうか。

作文の方は、事務局の方にお任せしますので、今私がまとめさせていただいた内
容を中心に、昨年度の評価として承認いただきたいと思います。せっかくの機会
ですので、センターに対するご意見やご要望はありませんか。

委 員：支部の設置はいかがでしょうか。必要性は分からないけど、地域では知らない人
は全く知らない。支部があれば、つながりが出来て、情報も入ってくると思いま
す。物理的には、公民館やコミュニティセンターを使っている問題ないので、場
所を使ってくれというよりも、知的な部分のつながりができれば。資金の問題も
あるでしょうけれど、検討する必要はないのでしょうか。

会 長：もう一度イメージとして、支部を作って、どういう方がどこにおられるのかとか、
どういう機能を具体的に備えようとするのか、教えていただければ、もう少しイ
メージしやすいのですけれど。

委員：具体的には浮かばないが、南花台西小学校跡がありますよね。あそこにもあれば、あっちにお住まいの方も集まってきやすい。ここは、この近くの人は全然問題ないと思うけれど、向こうの方はどうなのかなと思います。

会長：例えばですけれど、それをセンターで今の NPO さんがやられると、あれくらいの規模になるとスタッフが 3～4 人必要になります。そうすると人件費も発生してくる。そういう意味では、今のイメージだとつらいものがあります。富田林は、ネットワークセンターと言って、10 か所くらいあります。その中の一つが大政寿司さん。センターに連絡をいただき、うちはあそこが近いから使いたいと言えば、そこへつないでくださる。そういうような役割でしたら無理がないというか、富田林でも動かしていますので。まず、そういうところからスタートしていくのもありですね。貸しスペースだけではなくて、富田林は NPO の事務所が点在しているので、そのコピーをセンターと同じ料金で使わせていただけるというサービスもしていらっしゃる。それが一つのアイデアとしては、実際動かしていらっしゃると思いますので、できる話かなと思います。

委員：最近分かったんですが、こちらにはない本を探す時、大阪府立図書館で検索してあれば、府立図書館から転送して、千代田公民館で借りることが出来ます。待つ時間は長いけれど、大阪府立図書館にある本が千代田公民館で受け取ることが出来ます。非常にありがたいシステムだと思っています。その機能でいうと、公民館の人にちょっと手助けしていただいたら、人は増やさなくていいし、そういうアイデアがあればいいと思う。

会長：うちの学生も図書館を使うのが上手くないんですが、司書の方も相談役としておられます。レポートの課題をするのに、どんな本を読めばいいですかと司書の方に相談したら教えてくれるはずですが、司書の役割というのは学生にまで届いていません。センターも同じだと思います。何かあった時、ちょっと連絡すれば、いろいろ教えてくれるという形にさせていただくと、みんなもぶらっと来たり電話やメールで相談に乗っていただけるというのが分かるんですけどね。

委員：言われる通りだと思います。情報がつかめていないし、知らないから素通りしてしまう。

委員：みんなが同じだという土俵に乗っていただけるようになっていけばいいと思います。私もボランティア活動をしているが、る一ぷらざさんの方には入っていません。存在は分かっていましたが、障がい者の団体からは敷居が高かった。私たちは私たちで頑張っていていくということから、今度はまちづくり協議会の方になって、る一ぷらざさんがうちもおっしゃったんですが、長野小学校区は、ご

相談というよりも、一緒にやらせていただくという立場の中でさせていただいています。る一ぷらぎは長野小学校の近くにありますが、使うことがない。会議で初めて来させていただきましたので、もっと連携が取れて、情報を流していただくという意味では、市民全部に回覧を回すということではなくて、その地域の会長さんにだけでも、お宅の地域にはこういうふうなボランティアグループがありますよという情報だけでも流していただければ、会としては助かると思います。やはり町会と一緒に、なかなかまちづくり協議会の方も市民の人がこぞって手を挙げて参加していただくという状況ではありませんので、教えていただけたら、まちづくり協議会からでもお尋ねに行けるし、協力していける一歩になると思います。小学校区にしましても、小さなちょっとしたグループなどの情報は分からない部分があります。例えば手話のグループとかを教えてもらえると助かります。連携を取っていただくということから始めていただければ、各町会も情報発信のお手伝いができると思います。支店とか支所とかではなく、年数をかけてしていただければと思います。今、いろんな意味で、世間一般的に見直しの時期だと思います。

会 長：ありがとうございます。自治会さんは、色んなことを他にもしていらっしゃると思います。例えば、講座を開いたり、ネットを開いたりというときに、その中に市民団体さんの持っているノウハウで連携できることがあると思います。そういうところと上手く情報がつながっていけば、いいのかなと思います。先程おっしゃっていただいたように、手話出来る方、要約筆記が出来る方がおられれば、講演会を行う時に必ず入っていただくと、バリフリーの講演会になるでしょうし。

委 員：全然、的外れの発言かもしれませんが、私は長年商店街の役をしていたので、その立場からまちづくりの話させていただきます。河内長野の新興住宅地では、街を作る時に買い物で不便をきたさないようにということで、ショッピングセンターを作りました。ところが、入居した方々は、その当時は若い世代で、住宅ローンもあり、子育てもありということで、買い物は1円でも安い方がいいという考え方が先行しまして、地元のショッピングセンターを使わずに、郊外のスーパーへ買い物に行きました。そのために、地元のショッピングセンターの経営が成り立たなくなっていて、廃業せざるを得なくなりました。今、当時住んでいた人が高齢化してしまって、買い物する施設がないというのが現実の姿です。私たち商会の立場から言わせてもらおうと、自業自得だと思いますが、これは誰がどう解決するのか。大きな社会問題だと思っています。こういうような現実をとらえて、大きなまちづくりという意味を考えると、今私たちが地元でしているまちづくり協議会というのは、違う考え方のものになって来ているように思います。もっと基本的にそこに住んでいる住民の方々が、そこで安心して暮らせるような、まちづくりというものを、根本的に考えていかないといけないと思います。行政にも責任があると思います。新興住宅地を開発するときには、ここにショッピングセンターを作りますから、安心して移り住んでくださいとあって、住宅を開発

させた訳です。ソフト面で地域のまちづくり協議会を進めていって立ち上げるは、大変必要だと思います。でも、もっともっと現実的な問題をどう解決していくのか。全体の河内長野のまちづくりを考えていく上で、今後大きな問題だと思っている。

会長：まさしく数年前に川上小学校区でまちづくり交流会をしていた時に、私もお付き合いをさせてもらっていましたが、その話が出ました。ショッピングセンターがつぶれたから市に何とかせよという声があったのですが、河内長野が上手くできているなど思うのは、ほとんどの小学校区で、旧村とニュータウンが同じ小学校区です。川上小学校区の時にも、旧村の方がおられて、ずばり言ってくださったのが、ニュータウン側の方は、市がなんとかせよとお話をされているが、お前ら何言っているんだと、潰したのはお宅らでしょ、どこを連れてきても潰れるのは分かっているのにそんなところに誰が業者を連れてくるのかと。うちはもっと山の上の村だけど、村の長男は職業選択の自由はなく、家を守って行かないといけなくて、家から通えるところに職業を見つけて来ないといけなくて。にもかかわらず、ニュータウンの息子さん娘さんたちは、自分の好きなところに職業を求めて、親世代だけが住んでいる。親が高齢化していけば、買い物に行けない。でも、村の中の人間は、私がおじいちゃんおばちゃんを買い物に連れて行くというような話をされていました。

そういう意味では、うまく小学校区の中で話し合いが進んで行けば、行政がすべきこと、自分たちがやらないといけないことが見えてくるというのが、先程の川上小学校区の話の中で見えてきましたので、こういう話し合いを本音も含めて出し合っていくのが重要ではないのかなと思いますし、中にはNPOや市民団体がカバーしている地域が他市ではありますので、そういう情報提供もセンターが出来たら、少し違った方向でのまちづくりがみえてくるのではないかと思います。なかなか難しい問題だと思いますが。

ニュータウンは生活の利便性だけではなく、空き家問題も今後どんどん出てくると思います。今ちょうど市の方が総合計画の大きな計画づくりに着手し始めていますので、ニュータウン問題は、20年後30年後見越した段階でどうするのか、大きな柱として考えていかなければならない問題だと思います。

あと何かございますでしょうか。

会長：せっかくの機会ですので、皆様方の口コミでも一ふらぎの宣伝をしていただくとありがたいなと思います。今日は、以上で終わらせていただきます。ありがとうございました。